

加藤良夫教授 略歴・著作目録

略 歴

- 1948年6月 名古屋市に生まれる
- 1971年3月 中央大学法学部法律学科卒業
- 1971年10月 司法試験合格
- 1974年3月 最高裁判所司法研修所修習（第26期）修了
- 1974年4月 弁護士登録（名古屋弁護士会〔現愛知県弁護士会〕所属）
- 1977年10月 医療事故相談センター開設
- 1978年2月 医療過誤問題研究会代表（1997年2月まで）
- 1981年2月 医療を良くする会世話人
- 1981年6月 名古屋大学医学部病理学教室研究生（1990年3月まで）
- 1984年9月 患者の権利宣言(案)起草委員
- 1986年5月 日本弁護士連合会人権擁護委員（医療と人権部会）（2004年4月まで）
- 1989年4月 公立春日井小牧看護専門学校非常勤講師（医事法，衛生法規・関係法規）（1999年3月まで）
- 1990年12月 医療事故情報センター理事長（2001年4月まで）
- 1991年10月 患者の権利法をつくる会常任世話人（2009年9月まで）
- 1991年4月 名古屋大学医学部非常勤講師（医事法）（1992年3月まで）
- 1991年4月 徳島大学医学部非常勤講師（医事法）（1999年3月まで）
- 1993年4月 中京大学法学部非常勤講師（医療と人権）（1994年3月まで）
- 1993年8月 聖隷浜松病院倫理委員会委員
- 1995年1月 日本医事法学会理事
- 1995年4月 社会保険中京看護専門学校非常勤講師（医事法，関係法規）

(1997年3月まで)

- 1995年12月 医療の安全に関する研究会常任理事(事務局長)
- 1996年7月 NIRA 総合研究開発機構 薬害等再発防止システムに関する研究会委員(1998年7月まで)
- 1997年4月 名古屋弁護士会あっせん・仲裁人(2009年3月まで)
- 1997年9月 「医療被害防止・救済センター」構想公表
- 1998年4月 静岡県立大学短期大学部看護学科非常勤講師(生命倫理)(2002年3月まで)
- 1998年9月 日弁連人権大会(札幌)シンポジウム実行委員長
- 1999年5月 名古屋弁護士会懲戒委員会委員(2006年5月まで)
- 2000年5月 日本弁護士連合会人権擁護委員会委員長(2001年4月まで)
- 2001年4月 愛知大学法学部教授(民法)(2003年3月まで)
- 2001年10月 「医療被害防止・救済システムの実現をめざす会」(仮称)準備室開設
- 2002年8月 名古屋大学病院院内事故調査委員会委員(2002年10月まで)
- 2003年4月 南山大学法学部教授(民法)(2004年3月まで)
- 2004年4月 南山大学大学院法務研究科教授(2017年3月まで)
- 2007年4月 南山大学法曹実務教育研究センター長(2017年3月まで)
- 2007年4月 厚生労働省 診療行為に関連した死亡に係る死因究明等の在り方に関する検討会(2008年12月まで)
- 2008年10月 日弁連人権大会(富山)シンポジウム実行委員長
- 2011年8月 厚生労働省 医療の質の向上に資する無過失補償制度等のあり方に関する検討会(2013年6月まで)
- 2012年2月 厚生労働省 医療事故に係る調査の仕組み等のあり方に関する検討部会(2013年5月まで)
- 2014年11月 厚生労働省 医療事故調査制度の施行に係る検討会(2015年3月まで)

2015年9月 一般社団法人日本医療安全調査機構再発防止委員会委員

主要著作目録

著 書

- 『法律的分析による医事法学的書式：明日のわが国のよりよき医師・患者関係を願って』（監修） 自然科学社 1985年
- 『医事法学叢書（第2巻）』（共著） 日本評論社 1986年
- 『医事法学叢書（第3巻）』（共著） 日本評論社 1986年
- 『現代法律実務の諸問題（昭和62年版）』（共著） 第一法規 1988年
- 『判例評釈 医療事故と患者の権利』（共著） エイデル研究所 1988年
- 『看護技術増刊号 現代看護を理解する100の用語』（共著）
メヂカルフレンド社 1989年
- 『医療過誤判例百選 別冊ジュリスト No.102』（共著） 有斐閣 1989年
- 『現代法律実務の諸問題（平成2年版）』（共著） 第一法規 1991年
- 『患者さんの望む安全な看護とは？』（単著） ふれあい企画 1992年
- 『患者側弁護士のための実践医療過誤』（単著） ふれあい企画 1992年
- 『手術同意書に関する研究報告書』（共著） ふれあい企画 1992年
- 『あなたが医療の主人公』（共著） 大月書店 1992年
- 『医療事故紛争の上手な対処法』（共著） 民事法研究会 1993年
- 『医療過誤から患者の人権を守る』（単著） ぶどう社 1993年
- 『現代福祉学レキシコン』（共著） 雄山閣出版 1993年
- 『臨床試験に関する研究報告書』（共著） 名古屋弁護士会 1995年
- 『看護の「質評価」をめぐる基礎知識』（共著） 日本看護協会出版会 1996年
- 『民事弁護と裁判実務⑥ 損害賠償Ⅱ（医療事故・製造物責任）』（共著）
ぎょうせい 1996年
- 『医療事故110番（Q&A）』（共著） 民事法研究会 1997年
- 『歯科訪問診療』（共著） （株）ジーシー 1997年
- 『患者側弁護士のための実践医師尋問』（単著） ふれあい企画 1997年

『病理解剖マニュアル』(共著)	文光堂	1998年
『生命倫理学講義』(共著)	日本評論社	1998年
『現代法律実務の諸問題(平成9年版)』(共著)	第一法規	1998年
『NIRA研究報告書 No.1990118』(共著)	総合研究開発機構	1999年
『現代法律実務の諸問題(平成10年版)』(共著)	第一法規	1999年
『医療事故被害者の人権と救済』(共著)	明石書店	2001年
『看護事故教訓集』(監修)	日本看護協会出版会	2001年
『現代法律実務の諸問題(平成12年版)』(共著)	第一法規	2001年
『医療契約書に関する研究報告書』(共著)	名古屋弁護士協同組合	2002年
『ホームヘルパーのためのヒヤリ・はっと介護事故防止ハンドブック——安全・安心な介護のポイント(ホームヘルパー現任研修テキストシリーズ)』(編著)	日本医療企画	2002年
『歯科医療事故予防学』(共著)	医歯薬出版	2003年
『新しい医療を拓く』(共著)	医学書院	2003年
『生命のフィロソフィー』(共著)	世界思想社	2003年
『患者側弁護士のための実践医療過誤訴訟』(共著)	日本評論社	2004年
『実務ロイヤリング講義(実務法律講義③)』(共著)	民事法研究会	2004年
『現代法律実務の諸問題(平成15年版)』(共著)	第一法規	2004年
『医療事故から学ぶ 事故調査の意義と実践』(共著)	中央法規出版	2005年
『これからの医療と病院のあり方』(共著)	金原出版	2005年
『実務医事法講義(実務法律講義⑫)』(共編著)	民事法研究会	2005年
『患者側弁護士のための実践医師尋問』(単著)	日本評論社	2006年
『脳神経外科学大系 15 インフォームドコンセント』(共著)	中山書店	2006年
『医事法判例百選 別冊ジュリスト No.183』(共著)	有斐閣	2006年
『生命倫理と法 II』(共著)	弘文堂	2007年
『安全で質の高い医療を実現するために 医療事故の防止と被害の救済のあり方を考える』(共著)	あけび書房	2009年

- 『医療事故紛争の上手な対処法——市民と弁護士のための医療事故ガイドブック（全訂版）（実務法律学全集4）』（共著） 民事法研究会 2010年
- 『現代法律実務の諸問題（平成21年度研修版）』（共著） 第一法規 2010年
- 『医療の中の病理解剖——患者から学び医療者が共に切磋琢磨する文化を築くために』（共著） 第100回日本病理学会総会 2012年
- 『医療事故と医療人権侵害（シリーズ生命倫理学 第18巻）』（共編著） 丸善出版 2012年
- 『医事法判例百選 第2版 別冊ジュリスト No.219』（共著） 有斐閣 2014年
- 『実務医事法（第2版）』（編著） 民事法研究会 2014年

論 文

「『医療事故相談センター』について」

『名古屋弁護士会会報』No.200 名古屋弁護士会 1977年

「ロサンゼルスでの医療過誤専門弁護士と会見して——法律研究会から——」

『名古屋弁護士会会報』No.228 名古屋弁護士会 1980年

「医療過誤訴訟が医療に及ぼす影響について——問題提起の意味で」

『ジュリスト』No.745 有斐閣 1981年

「説明等に関するカルテ記載上の問題点」

『法律時報』第57巻第4号 日本評論社 1985年

「患者の権利宣言(案)をめぐって」

『判例タイムズ』No.551 判例タイムズ社 1985年

「なぜ“患者の権利宣言”なのか」

『ナースステーション』第15巻第3号 医学書院 1985年

「『権利宣言』はラブコール！」

『医療'85』第1巻第4号 メヂカルフレンド社 1985年

「患者の権利と看護の安全義務」

『エキスパートナース』第2巻第2号 照林社 1986年

「医療記録再論」

『年報医事法学』No.1 日本評論社 1986年

- 「いわゆる『尊厳死』状況と医事法学」
『年報医事法学』No.1 日本評論社 1986年
- 「患者の人権——医療への患者のアクセス権を中心として——」
『ジュリスト』増刊No.44 有斐閣 1986年
- 「医療裁判の立証活動のノウハウ——勝敗を決定する鑑定を中心として」
(弁護士研修講座——昭和61年度講義録) 1987年
- 「鑑定をめぐる実務上の問題点」
『年報医事法学』No.2 日本評論社 1987年
- 「医療訴訟と鑑定」 『年報医事法学』No.2 日本評論社 1987年
- 「保健婦への期待」 『保健婦雑誌』第43巻第10号 医学書院 1987年
- 「褥瘡裁判と看護婦の責任」 『年報医事法学』No.3 日本評論社 1988年
- 「医療被害の背後にあるもの」
『看護学雑誌』第52巻第7号 医学書院 1988年
- 「医療事故にみる患者の人権」
『法と民主主義』第236号 日本民主法律家協会 1989年
- 「『おまかせ』風土の医師・患者関係——『懲罰医学』の功罪」
『医療'89』第5巻第5号 メヂカルフレンド社 1989年
- 「高校生の校内献血をめぐるって」
『自由と正義』第40巻第6号 日弁連 1989年
- 「看護婦への期待——Gさんへの手紙——」
『看護展望』第14巻第8号 メヂカルフレンド社 1989年
- 「医療事故」 『理学療法ジャーナル』第23巻第8号 医学書院 1989年
- 「医療過誤と医療裁判」 『通信医学』第41巻第12号 保健同人社 1989年
- 「医療過誤の動向とその対策」
『医療'90』第6巻第3号 メヂカルフレンド社 1990年
- 「患者中心の医療のために」 『公衆衛生』第54巻第6号 医学書院 1990年
- 「精神医療における患者—治療者関係」
『年報医事法学』No.5 日本評論社 1990年

「第2回 保健法及び倫理に関する国際会議」

『年報医事法学』No.5 日本評論社 1990年

「保健医療サービスと患者の権利」

『ヘルスサイエンス』第6巻第3号 日本健康科学学会 1990年

「『医療事故情報センター』について」

『自由と正義』第41巻第12号 日弁連 1990年

「患者の人権と『看護の社会的評価』」

『看護展望』第16巻第6号 メヂカルフレンド社 1991年

「看護婦養成課程における医事法教育の位置」

『年報医事法学』No.6 日本評論社 1991年

「医学教育における医事法の位置」

『年報医事法学』No.6 日本評論社 1991年

「患者の権利」

『ジュリスト』No.983 有斐閣 1991年

「医療過誤・患者の人権」 『自由と正義』第42巻第7号 日弁連 1991年

「理学療法処方めぐって」

『理学療法ジャーナル』第25巻第10号 医学書院 1991年

「『最善の看護を提供する権利』をどう生かすか」

『ナースアイ』第5巻第2号 桐書房 1992年

「インフォームド・コンセント」 『年報医事法学』No.7 日本評論社 1992年

「インフォームド・コンセントの定着のための実践報告」

『年報医事法学』No.7 日本評論社 1992年

「看護婦さんは患者さんの守り手」

『月刊ナースデータ』第13巻第10号 日総研出版 1992年

「協業としてのチームワークを考える」

『作業療法ジャーナル』第27巻第4号 三輪書店 1993年

「患者中心の医療を旨として」

『日本歯科医師会雑誌』 日本歯科医師会 1993年

「最善の看護を提供する権利と責任」

- 『ヘッドナース '93』第8巻第2号 日総研出版 1993年
「矯正治療とインフォームド・コンセント」
- 『矯正臨床ジャーナル』東京臨床出版 1993年
「医療・看護過誤が発生する主な要因」
- 『ヘッドナース '93』第8巻第3号 日総研出版 1993年
「『患者の人権』の確立が鍵」
- 『看護』第45巻第14号 日本看護協会出版会 1993年
「医療・看護過誤と看護者の法的責任」
- 『ヘッドナース '93』第8巻第4号 日総研出版 1994年
「Anesthesia mortality and morbidity in Japan」
- 『Journal of Anesthesia』第8巻第1号 日本麻酔科学会 1994年
「医療紛争処理システムのあり方」
- 『ノモス』No.5 関西大学法学研究所 1994年
「特異的解毒剤の現状と問題点」
- 『中毒研究』第8巻第1号 へるす出版 1995年
「医療と医薬品」
- 『年報医事法学』No.10 日本評論社 1995年
「蒔立明・中井美雄編『医療過誤法』」
- 『年報医事法学』No.10 日本評論社 1995年
「療法の選択及び帝王切開に関する過失」
- 『別冊ジュリスト』No.140 有斐閣 1996年
「『患者の権利法』制定を提言」
- 『国民生活』第27巻第8号 東京官書普及 1997年
「『医療被害防止・救済センター』の設置を！」
- 『国民生活』第28巻第2号 東京官書普及 1998年
「癌診療におけるインフォームド・コンセントの法的意義」
- 『医学のあゆみ』第185巻第6号 医歯薬出版 1998年
「A Safety Guide for Spinal Anesthesia」
- 『麻酔と蘇生 Anesthesia and Resuscitation』第34巻第2号

- 広島大学大学院「麻酔と蘇生」編集部 1998年
「『医療の質』をいかに改善するか」
『メディカルトリビューン』第31巻第33・34号
メディカルトリビューン 1998年
「『医療被害防止・救済センター』構想」
『ナーシング・トゥデイ』 日本看護協会出版会 1998年
「患者の権利法——私はこう考える」
『看護展望』第24巻第9号 メヂカルフレンド社 1999年
「医療事故対策」 『日本病院会雑誌』第46巻第9号 日本病院会 1999年
「『医療被害防止・救済機構』の設置を」
『日弁連新聞』No.312 日弁連 2000年
「真摯な研さんと権利尊重が良好な関係を生む」
『メディカルサロン』2000年2月号 2000年
「医療過誤訴訟をいかに改革していくべきか」
『月刊司法改革』No.11 現代人文社 2000年
「医療被害防止・救済センター構想について」
『日本病院会雑誌』第49巻第6号 日本病院会 2002年
「【医療と生命倫理】安全な医療を実現するために『医療被害防止・救済センター』構想について」
『教育と医学』第50巻第11号 慶應義塾大学出版会 2002年
「医療事故と防止システム 救済システムが事故防止に機能する」
『年報医事法学』No.18 日本評論社 2003年
「我妻堯著『鑑定からみた産科医療訴訟』日本評論社」
『年報医事法学』No.18 日本評論社 2003年
「安全な医療を求めて」
『日本病院会雑誌』第51巻第2号 日本病院会 2004年
「病院の医療過誤防止対策について」
『日本病院会雑誌』第51巻第5号 日本病院会 2004年

- 「法科大学院における医事法教育の実情——アンケート調査から」
『年報医事法学』No. 20 日本評論社 2005年
- 「患者の視点も踏まえた医療事故報告制度」
『日本外科学会雑誌』第106巻第9号 日本外科学会 2005年
- 「医療事故の被害者救済に関する研究——市民による『救済判定』の可能性を探る——」
『南山法学』第29巻第4号 南山大学法学会 2006年
- 「医療契約を考える——医療事故をめぐる」
『年報医事法学』No. 21 日本評論社 2006年
- 「医療被害者の『5つの願い』を踏まえたシステム構築を」
『ジュリスト』No. 1323 有斐閣 2006年
- 「国民が求める病院——医療を扱う弁護士の立場から」
『日本病院会雑誌』第54巻第11号 日本病院会 2007年
- 「安全な医療を求めて——医療事故をどう考えていかに解決すべきか」
『愛知県小児科医会会報』No. 86 愛知県小児科医会 2007年
- 「医療事故と刑事責任」
『年報医事法学』No. 23 日本評論社 2008年
- 「医療安全調査委員会」
『法学教室』No. 335 有斐閣 2008年
- 「医療の安全につながる制度とするために——患者側弁護士の立場から」
『年報医事法学』No. 28 日本評論社 2013年
- 「医療事故調査制度実務上の留意点，その他の展望——患者側弁護士の立場から——」
『自由と正義』第66巻第9号 日弁連 2015年